

「公益信託ENEOS水素基金」2009年度 助成対象者の決定について
～高村 仁氏、福原 長寿氏、片桐 利真氏、都留 稔了氏、岡本 浩明氏、津江 広人氏の
6名に決定～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)が設定した「公益信託ENEOS水素基金(運営委員長:太田 健一郎 横浜国立大学大学院教授、受託者:中央三井信託銀行)」は、この度、2009年度助成対象者を次の6名(敬称略)に決定しましたのでお知らせいたします。

高村 仁 (東北大学大学院工学研究科 准教授)
福原 長寿 (静岡大学工学部物質工学科 教授)
片桐 利真 (岡山大学大学院自然科学研究科 准教授)
都留 稔了 (広島大学大学院工学研究科 教授)
岡本 浩明 (山口大学大学院理工学研究科 准教授)
津江 広人 (京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授)

本基金は、水素エネルギー供給に関する研究助成に特化した公益信託としてはわが国で初めてのものであり、独創的かつ先導的な基礎研究への助成を行い、水素社会実現に貢献することを目的として、2006年3月に当社が創設したものです。本基金の信託財産の規模は総額15億円と、企業が設定する公益信託としては国内最大規模であり、年間総額5千万円(1件あたり最大1千万円)の研究助成金を、約30年間にわたり安定的に交付することが可能です。

本年度は、合計31件の応募がありましたが、本基金の運営委員会において、「本基金設立の趣意との整合性」、「独創性・新規性」、「研究計画の妥当性」等につき公正かつ厳格に審査を行い、6名の助成対象者を決定しました。

水素は燃料電池等に利用され、サステナブルな社会を創造するためのエネルギーとして期待されていますが、エネルギーシステムとして社会に普及させていくためには、水素エネルギー供給に関する大きな技術革新が必要です。本基金の助成する研究が、1日も早い「水素社会」の到来につながることを期待しています。

なお、当社は、本年8月より活動を開始した「水素供給・利用技術研究組合」に参加しており、2015年度での水素供給インフラ・燃料電池自動車(FCV)の本格普及を目指し、社会実証試験に取り組んでまいります。

以上

添付資料: 2009年度 助成対象者および研究テーマ、「公益信託ENEOS水素基金」の概要

 [2009年度 助成対象者および研究テーマ \(PDF:69.2KB\)](#)

 [「公益信託ENEOS水素基金」の概要 \(PDF:307.2KB\)](#)